



北海道別海町におけるアメリカビロードキンクロ

Melanitta deglandi の日本初の可能性のある記録

大谷力^{1,*}・川島洋²

1. 〒 206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘

2. 〒 263-0034 千葉県千葉市稲毛区稲毛

はじめに

アメリカビロードキンクロ *Melanitta deglandi* は、カモ目カモ科ビロードキンクロ属に属する鳥類の1種であり、アラスカ及びカナダで繁殖し、主に北米大陸沿岸部で越冬する (Madge & Burn 1988, del Hoyo *et al.* 1992). 従来は、シベリア東部からカムチャッカ半島にかけて繁殖するビロードキンクロ *M. stejnegeri* とともに、北ヨーロッパからシベリア西部及び西アジアの一部にかけて繁殖するニシビロードキンクロ *M. fusca* の亜種と見なされており (Madge & Burn 1988), 日本鳥学会 (2012) でもそのように扱われている. しかし近年では、形態の違いに加え、それぞれの繁殖地に重複が無く交雑例も知られていないことなどから、それぞれを独立種と考えることが主流である (先崎ほか 2020, Clements *et al.* 2021, Gill *et al.* 2021).

著者らは、過去複数回国内でアメリカビロードキンクロを観察している (未発表) が、その内最初の記録について貴重な情報であると考え、ここに報告する. なお、本稿における分類は世界の主要なチェックリスト (Clements *et al.* 2021, Gill *et al.* 2021) に、各分類群の和名は基本的に日本鳥学会 (2012) にそれぞれ準拠したが、日本鳥学会 (2012) に適合しない種和名については氏原・氏原 (2015) に従った.

2022年1月29日受理

キーワード: アメリカビロードキンクロ, *Melanitta deglandi*, 北海道別海町, 日本初の可能性のある記録

*: otanichikara@ybb.ne.jp

観察日時, 場所および観察状況

2003年9月21日昼頃, 著者の大谷が北海道野付郡別海町走古丹先端部から観察を行っている際, 北東沖合目測で約200m (概ね43°17'55" N, 145°23'18" E付近) において, 単独で海上に浮いている本個体1羽を発見した. 走古丹は風連湖と外海を隔てる砂州上に位置し, その先端部は風連湖の開口部にあたる. 観察には倍率20倍の望遠鏡を用い, その後4.0メガピクセルのデジタルカメラを望遠鏡に装着して撮影を行った. 天候は曇りで南風が吹いていた. 本個体は北方向へ海上を移動しており, 採餌等の特筆すべき行動は観察されなかった. 付近ではクロトウゾクカモメ *Stercorarius parasiticus* やヒシクイ *Anser fabalis* も同時に観察された.

形態的特徴と種の同定

本個体はマガモ *Anas platyrhynchos* と同大もしくはやや小さく, 水面に浮いた状態で, 頭部は相対的に大きく首が太く, 嘴は基部に厚みがあり, 胴体は長く水面から半分ほど浮いており, その形態からカモ目カモ科の1種である (図1). さらに全身がほぼ全て黒色もしくはそれに近い暗色, 目の下から後方にかけてカンマ上の白斑があり, 上嘴基部に黒い瘤状突起を持ち, 嘴中程から先端部にかけては橙色である (図1) ことから, ニシビロードキンクロ, ビ



図 1. 北海道別海町で観察されたアメリカビロードキンクロ。(2003年9月21日, 撮影: 大谷力).

Fig. 1. The White-winged Scoter observed in Betsukai Town, Hokkaido on 21 September 2003. (Photographed by Otani C.)

ロードキンクロ, アメリカビロードキンクロの3種のいずれかである (Madge & Burn 1988, del Hoyo *et al.* 1992, Reeber 2015). また, これらの特徴を併せ持つのは成鳥 (2年目冬以降) の雄である (Reeber 2015, 氏原・氏原 2015).

本個体の特徴を詳細に見ると, 頭部から頸, 胸, 背にかけては黒色, 脇は暗褐色であり, 黒色部と暗褐色部の差異は顕著であった (図 1). 頭部の白斑はビロードキンクロ成鳥雄と同程度の長さであった (図 1). 頭部の形状はビロードキンクロに比較して, 額がより高く角ばっていた (図 1). 上嘴の瘤状突起は小さく, 丸みを帯びていた (図 1). 嘴中程から先端部にかけての橙色部は, 基部から嘴峰にかけては黄色味が強く, 側面から外縁部は赤橙色であった (図 1). 次列風切は脇羽に隠れており, 確認できなかった (図 1).

上記3種の成鳥雄の内, ニシビロードキンクロは脇が黒色で, 頭部の白斑は通常のビロードキンクロよりも短く, 頭部は丸みを帯びる (Svensson *et al.* 2009, Reeber 2015, 氏原・氏原 2015). 嘴の瘤状突起はより小さく, 嘴の橙色部は全体的に黄色味が強い (Svensson *et al.* 2009, Reeber 2015, 氏原・氏原 2015) ことから, 本個体とは特徴が異なる. ビロード

キンクロは脇が黒色で, 額は低くなだらかである (Svensson *et al.* 2009, Reeber 2015, 氏原・氏原 2015). 嘴の瘤状突起は大きく角状に尖っており, 橙色部は赤橙色であり, 外縁部が黄色い (Svensson *et al.* 2009, Reeber 2015, 氏原・氏原 2015) ことから, 本個体とは特徴が異なる.

一方, アメリカビロードキンクロは脇が暗褐色であり, 頭部の白斑はビロードキンクロと同様, ニシビロードキンクロに比較して長い (Svensson *et al.* 2009, Reeber 2015, 氏原・氏原 2015). 頭部の形状は額が高く角ばっており, 上嘴の瘤状突起は小さく, 丸みを帯びている (Svensson *et al.* 2009, Reeber 2015, 氏原・氏原 2015). また嘴中程から先端部にかけての橙色部は, 基部から嘴峰にかけては黄色味が強く, 側面から外縁部は赤橙色である (Svensson *et al.* 2009, Reeber 2015, 氏原・氏原 2015). アメリカビロードキンクロのこれら全ての特徴は, 本個体と一致しているため, 本個体をアメリカビロードキンクロ雄成鳥と同定した.

考察

本種は日本鳥学会 (2012) には掲載されていないが, 2019年1月の記録が学術報告され

ている（先崎ほか 2020）。この他、2012年に北海道で雄が観察され、2014年には千葉県で少なくとも雄3個体が観察されていることが、出版物に記述されている（氏原・氏原 2015）。更にインターネット上で2012年後に複数例の画像が北海道東部の記録として掲載されていることが指摘されている（先崎ほか 2020）。

著者らの知る限りでは、本記録がアメリカビロードキンクロの本邦初記録であるが、本種の国内における未発表記録について今回は徹底した収集を行っていない事、また後述の理由により、本記録については日本初の可能性のある記録とした。なお、本個体がどのような経緯で別海町へ渡来し、いつからいつまで当地に滞在したかは不明である。

近年になって本種の記録が増加している要因として、2つの可能性が考えられる。1つ目は、本種の分布や移動に関係する何らかの変化が近年生じている可能性、2つ目は、本種自体は以前から一定数渡来していたが単に見逃されており、近年の識別情報の充実や観察者の増加により記録が増加した可能性である。2012年以降の本種の記録頻度からは、本種の本邦への渡来が、少なくとも近年においてはごく稀ではないことが考えられる。ビロードキンクロは北日本においては比較的普通種なので、各観察者がビロードキンクロの過去の記録を見直すことによって、本種の過去の記録が新たに発掘される可能性もあるだろう。

謝辞

本稿をまとめるに当たり、匿名の査読者に有用なご指摘を頂きました。ここに深くお礼申し上げます。

引用文献

- Clements, J. F., Schulenberg T. S., Iliff M. J., Billerman S. M., Fredericks T. A., Gerbracht J. A., Lepage D., Sullivan B. L., and Wood C. L. 2021. The eBird/Clements checklist of Birds of the World: v2021. (on line) <https://www.birds.cornell.edu/clementschecklist/download/>, accessed 2021-11-17.
- del Hoyo J., Elliott A. & Sargatal J. eds. 1992. Handbook of the Birds of the World. Vol. 1. Lynx Edicions, Barcelona.
- Gill F, Donsker D & Rasmussen P. eds. 2021. IOC World Bird List (v11.2). (on line) <https://www.worldbirdnames.org/>, accessed 2021-11-17.
- Madge S. & Burn H. 1988. Wildfowl. Christopher Helm, Kent.
- 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 三田.
- Reeber S. 2015. Waterfowl of North America, Europe, and Asia. Princeton University Press. Princeton.
- 先崎理之・田野井博之・田野井翔子. 2020. 宮城県仙台湾におけるアメリカビロードキンクロ *Melanitta deglandi* の観察記録. 日本鳥学会誌 69(2): 241–244.
- Svensson L., Mullarney K, & Zetterstrom D. 2009. Collins Bird Guide 2nd edition. Collins, London.
- 氏原巨雄・氏原道昭. 2015. 日本のカモ識別図鑑. 誠文堂新光社, 東京

Possible first record of the White-winged Scoter *Melanitta deglandi* for Japan from
Betsukai Town, Hokkaido

Chikara Otani^{1,*} & Hiroshi Kawashima²

1. Hijirigaoka Tama City, Tokyo 206-0022, Japan
2. Inage, Inage-ku, Chiba-City, Chiba 263-0034, Japan

A male White-winged Scoter *Melanitta deglandi* was observed on 21 September 2003 in Betsukai Town, Hokkaido, northern Japan. This is possibly the first sighting record of the species in Japan.

Keywords: White-winged Scoter, *Melanitta deglandi*, Betsukai Town, Hokkaido, possible first record for Japan.

*: otanichikara@ybb.ne.jp